



## 付 2 1 話 再度留学へ No.3

サンフランシスコに無事到着。東から西への移動は本当に遠い。時間もかかるが、気候が大きく変化する。アメリカの広さを実感する。今回は、到着時間も予定通り、予約したホテルへ無事チェックインだ。ホテルはヒルトンだったと思うが記憶にない。ニューヨークの安ホテルはよく覚えているが、一流ホテルは記憶がない。人間の記憶は不思議だ。いや、私の記憶が異常なのかもしれない。

ここで、ニューヨークで見た 2 つの建築、ライト設計のグッゲンハイム美術館とサーリネン設計の旧 TWA 空港についてお話ししよう。私が特に好きな建築のうちの 2 つである。シェル構造の研究をやっていた関係で、美しいシェル建築が基本的に好きだ。グッゲンハイム美術館 (Guggenheim Museum) は、セントラルパークの傍にある現代美術専門の美術館である。建物竣工までに 10 年間の歳月を要し、ライトの没年である 1959 年によく完成した。かたつむりの殻のようなと形容される螺旋状の構造をもつ建築物は中央部が巨大な吹き抜けがある。見学者はエレベーターで最上部に上がり、螺旋状の通路壁面に掛けられた作品を見ながら順路を進む。美術館の概念を根本から覆した作品として、ライトの代表作に数えられている。ただ、鑑賞しながら降りると、何となく不安定で目が回る。

ケネディ空港の旧 TWA ターミナルビルはサーリネンの作品で私の最も好きな建築である。コンクリート・シェル構造で、蝶が 4 枚の羽を広げたような屋根と、流れるような曲面が美しい。セントルイスの西部開拓を記念して建設された国立公園の中の記念碑、ゲートウェイアーチもサーリネンの設計である。デザインコンペの優勝案であり、その建設過程が地下にある映画館で上映されている。

サンフランシスコでは先のホテル予約のミスを考え、飛行機予約の再確認が最優先だ。航空会社の営業所を探し、サンフランシスコとセントルイスへの航空予約の **reconfirmation** を行う。サンフランシスコにおける観光は、滞在期間が短く、観光地が広いことを考え、一日の市内観光バス・ツアーを利用した。色々な名所・旧跡に行ったと思うがほとんど覚えていない。わずかに、金門橋 (Golden Gate Bridge) やユニオンスクエアを覚えている程度である。サンフランシスコ観光の中心のユニオンスクエアは、ケーブルカーや電車の起点があり、どこに行くにもアクセスが良い。ここを散歩し、ケーブルカーに乗った記憶がある。

フィッシャーマンズワーフ(Fisherman's Wharf)は海沿いにある有名観光地、波止場の雰囲気があり、ショップやレストランが多数並ぶ。ここでも散歩し、食事をした事しか覚えていない。サンフランシスコでは、トラブルは起こらず、かといって記憶に残ることもあまり多くない。観光とはそんなものなのだろうか。飛行機でロサンゼルスに向かうが、空港での記憶もない。

ロサンゼルスに戻ると、タクシーで A 君の家に行く。休日でないのに彼はいない。家の前のプールの脇で待つことにした。日中は暖かく、夜になると少し寒い程度だ。本当にアメリカは広い。眠り込んでいると彼に起こされ、驚いたと言われた。日程を告げていないことに気づく。コート汚れも謝罪した。「仕方がない、洗えば取れるさ」といって笑ったが、きっと怒っているに違いない。本当に申し分けない。

翌日、ワシントン大学に電話して Gould 教授の予定を聞き、アポをとろうとするが、秘書によれば教授は出張でしばらく大学にこないという。またもやトラブルである。うーん困った。仕方がない。セントルイス行きは中止だ。帰国まで1週間。A 君に頼み込み、またもここに滞在する。前回と同様、冬のロサンゼルスを楽しむ。ロサンゼルス空港から帰国する。前ほどのさみしさはない。また来れば良いとその時は思った。

アメリカ留学で気付いたこと、感じたことは多数ある。特に、日本人との習慣や性格の違いが面白い。少人数との経験なので、偏見が混じる。日本では、仕事の上下関係が職場以外にも持ち込まれ、時には家族にも及ぶ。アメリカでは、常に自由・平等が建前、仕事上の上下関係は一旦外に出ると意味がない。親しくなると職場でも年齢・上下関係などに関係なく、ファーストネームで呼び合う。敬意の念は、日本では仕事上の地位や肩書に、米国では人徳や能力に対し払われる。日本では組織から外れて肩書がなくなると、敬意を示されなくなる。そのため、仕事上の地位にしがみつ়く人が多いのかもしれない。その違いが実に面白い。

留学の後、外国への論文発表や講演に何度か行ったが、これほど記憶に残り、人生に影響を与えた経験はない。苦しい時や辛い事があると、あの厳しい状況を思い出し、大丈夫、解決できると思えるようになる。若いときの経験、先が見えず、苦勞して前に進んだ経験は何事にも変えがたい宝物である。若い読者には留学をお勧めする。きっと特別な何かを得られるはずだ。人生に大きな影響を与える何か！

私の長い研究歴で誇れるものはそれほどない。表彰されたこともない。この論文は世界の一流論文に肩を並べている。特別セッションの論文集を多数買って、知人に配り自慢すればよかったと思う。残念！。